

立っている、空に浮かんだ
傷痕の影に蔽われつつ。

誰のためでも何のためにもなく立っている。
気づかれず、
ただ独り
おのれのために。

内に宿せるすべてをひろげ、
話すかたも
なく。

Stehen, im Schatten
des Wundenmals in der Luft.

Für-niemand-und-nichts-Stehn.
Unerkannt,
für dich
allein.

Mit allem, was darin Raum hat,
auch ohne
Sprache.

石上 寮一
ツエラン 訳詩選

[Translation]
ISHIGAMI, Ryoichi
Selected Poems of P. Celan

灰黒色の荒地の上空に
糸ほどの恒星が。
樹の高さを
見あげた思考が
輝く音色をつかみ取る。
人間の彼岸で
歌はなおもまだ歌えるのだ。

Fadensonnen
über der grauschwarzen Ödnis.
Ein baum-
hoher Gedanke
greift sich den Lichtton: es sind
noch Lieder zu singen jenseits
der Menschen.

瞬く刹那、誰の信号、
輝きはすべて目覚めている。
地に足をつけ、どこであろうと、
おのれに集中しろ、
倒れるな。

Augenblicke, wessen Winke,
keine Helle schläft.
Unentworden, allerorten,
sammle dich,
steh.

最先端をゆくな、
発散するな、

内側に

即け――

果無きものを足場に、

あらゆる

祈りに縛られず、

か細く紡ぎあわせ、

前言を覆さず、

及びもつかないところで

わたしはあなたを手に取る、

あらゆる

気休めとひきかえに。

Wirk nicht voraus,
sende nicht aus,
steh
herein:

durchgründet vom Nichts,
ledig allen
Gebets,
feinfügig, nach
der Vor-Schrift,
unüberholbar,

nehm ich dich auf,
statt aller
Ruhe.